

一刻も早い「安楽死」の法制化を

5

脚本家

橋田壽賀子



た、がんになってホスピスに入るのも、無理な治療や延命はせずに、緩和医療で痛みを取り除いてもらえるので、いいなあと思っています。それから在宅ケアの場合同も、無理に延命せず安らかに死ねるような治療方針を立ててくださる医師がいるそうなので、私は在宅ケアの先生にはゴマをすっているんです(笑)。

しかし、突然、認知症や寝たきりで、自分の意思を伝えられない状態になってしまったら、どうすることもできません。だから私は頭がしっかりしているうちに一筆書いて、「認知症になったと思ったらすぐ教えてね」と周囲にも言っています。家族や弁護士との立会いのもと本人の意思で一筆書き、それが悪用されない仕組みを整えたいうえで、安楽死できるように法制化されればいいと願います。

私は子供もなく、主人にも27年前に先立たれ、家族はいません。あとはどうやって死ぬかを考えるだけで

私が死に方について考えたのは、昨年5月に転んだことがきっかけでした。頭に血がたまり、額の神経が切れて眉が上がらず、いまでも顔は歪んだままです。なかでも脳内にできた血だまりは吸収されないことがあるそうで、医者から脳出血になるかもしれないからと

厳重に言われました。結局、CTを撮ると血だまりは消えていたのですが、こんななんでもないケガが原因で死んじゃうことがあるんだ、と実感したのです。

まだしも、自分の意思を伝えられなくなったら大変です。人の役に立てず、したいこともできず、身体も思うように動かせず、頭も働かせられない。私はそんな状態で生きていたくないと思います。

老衰で眠るように安らかに死ねたら理想的です。ま



ヨーロッパの安楽死風景(下は安楽死キット)
人がいれば、私のように安楽死したいと考える人もいる。だから選びたい人が安楽死を選べる制度があればいい、と思うのです。

族に施設に入れられ、認知症が進行し、暴れたり放浪したりするから体を縛られ、なにもわからなくなったまま5年も10年も生きてしまったら悲惨です。施設が入居者を守るために縛るのは仕方ありません。ただ、私はそんなふうに施設で生かされるのは嫌なので、安楽死させてほしいのです。

最近、高齢者の介護をめぐっては、老老介護で心当たりという痛ましいニュースを耳にします。私だったら自分の介護で家族が苦しむのは辛いから、そうなる前に安楽死したい。認知症になっても生きたい人はいるでしょうが、家族は姥捨て山のように施設に預けたあと、面会にさえ来ないというケースも多いようです。

また病院に入ると、そのままにしていれば老衰で亡くなるような場合でも、医師は生かすのが仕事ですから、胃瘻したり静脈に点滴を打ったりして、少しでも長く生かそうとしてくれます。それも有難いという患者もいれば、迷惑に思う患者もいる、だからこそ安楽死を法制化して、選択肢を増やしてほしいのです。安楽死が制度化されれば、希望者は大勢現れるでしょう。ボケて寝たきりで長生きなんかしたくない、という人はたくさんいます。

私はボケて体中にチューブをつけられ、高い薬を使って生かしてもらいたくない。自分の意思に反してさまざまな治療を受けて、それに税金が使われるのも嫌です。今、年間の医療費総額が40兆円を超え、その3分の1が75歳以上のものです。たとえば人工透析をすれば年間500万円かかる。と聞きますが、それも私は受けたくありません。

こんなことを言うと、高齢者は医療を受けるなど言うのか、と怒られそうです。が、私のようにもう十分生きて、これ以上長生きしたいと思わない老人に、高い医療費を使うのはもったいない、ということですが、実際、私は仕事もたくさんして、人生に後悔ややり残したことはないし、家族や親しい友人もいません。

主人が60歳で他界したときは、主人の分までも生きなければ、と思いました。今も身体も頭も元気なうちは生きていたいと思います。が、いつボケてしまうかわからない。人生の最期をどうするか、自分で選べる法制があってもいいのではないのでしょうか。

今の日本では安楽死どころか、終末期の患者本人の意思で延命治療を行わない、あるいは治療の中止を求め、という法案でさえ反対があつて成立しません。しかし、私が「安楽死で逝きたい」と発言すると大きな反響がありました。それだけ多くの人が安楽死を望んでいるのでしょうか。みなさん苦しんで長く生きるより、楽に死にたいんです。自分の最期くらい自分で決められるように、早く安楽死ができる法律と制度を作ってもらいたいと思います。

すが、寝たきりや半身不随、認知症になって、自分の判断が利かなくなつてまで生きたいとは思いません。

昨年、「安楽死で逝きたい」と発言すると、江原啓之さんから、人に迷惑をかける人間は死んだほうがいいというのは相模原の事件の容疑者と同じ発想だ、と怒られてしまいました。でも同じではありません。あの事件の被害者は死を望んでいなかったはずで、大事なのは本人の意思です。1秒でも長く生きたいと思う

お手伝いさんに安楽死できるところを調べてもらおうと、スイスやオランダ、ベルギーなどヨーロッパ各国や、アメリカの6つの州で認められていました。外国人を受け入れてくれるのはスイスのドイツニクスだけ。70万円で安楽死させてくれる団体で、本人の意思かどうか、重い病気で治る見込みがないのか、といったことを医師や弁護士が審査し、裁判所が認めれば安楽死できるものの、日本人の利用者はまだないそうです。

苦しんで長生きするより

91歳まで生きているから言えることですが、これ以上長生きするのがいいことだろうか、と思います。家

長生きするのがいいことだろうか、と思います。家族に施設に入れられ、認知症が進行し、暴れたり放浪したりするから体を縛られ、なにもわからなくなったまま5年も10年も生きてしまったら悲惨です。施設が入居者を守るために縛るのは仕方ありません。ただ、私はそんなふうに施設で生かされるのは嫌なので、安楽死させてほしいのです。

最近、高齢者の介護をめぐっては、老老介護で心当たりという痛ましいニュースを耳にします。私だったら自分の介護で家族が苦しむのは辛いから、そうなる前に安楽死したい。認知症になっても生きたい人はいるでしょうが、家族は姥捨て山のように施設に預けたあと、面会にさえ来ないというケースも多いようです。

また病院に入ると、そのままにしていれば老衰で亡くなるような場合でも、医師は生かすのが仕事ですから、胃瘻したり静脈に点滴を打ったりして、少しでも長く生かそうとしてくれます。それも有難いという患者もいれば、迷惑に思う患者もいる、だからこそ安楽死を法制化して、選択肢を増やしてほしいのです。安楽死が制度化されれば、希望者は大勢現れるでしょう。ボケて寝たきりで長生きなんかしたくない、という人はたくさんいます。

私はボケて体中にチューブをつけられ、高い薬を使って生かしてもらいたくない。自分の意思に反してさまざまな治療を受けて、それに税金が使われるのも嫌です。今、年間の医療費総額が40兆円を超え、その3分の1が75歳以上のものです。たとえば人工透析をすれば年間500万円かかる。と聞きますが、それも私は受けたくありません。

こんなことを言うと、高齢者は医療を受けるなど言うのか、と怒られそうです。が、私のようにもう十分生きて、これ以上長生きしたいと思わない老人に、高い医療費を使うのはもったいない、ということですが、実際、私は仕事もたくさんして、人生に後悔ややり残したことはないし、家族や親しい友人もいません。

主人が60歳で他界したときは、主人の分までも生きなければ、と思いました。今も身体も頭も元気なうちは生きていたいと思います。が、いつボケてしまうかわからない。人生の最期をどうするか、自分で選べる法制があってもいいのではないのでしょうか。

今の日本では安楽死どころか、終末期の患者本人の意思で延命治療を行わない、あるいは治療の中止を求め、という法案でさえ反対があつて成立しません。しかし、私が「安楽死で逝きたい」と発言すると大きな反響がありました。それだけ多くの人が安楽死を望んでいるのでしょうか。みなさん苦しんで長く生きるより、楽に死にたいんです。自分の最期くらい自分で決められるように、早く安楽死ができる法律と制度を作ってもらいたいと思います。